



vol. **23**
issued by SAPOSEN
spring 2021



p2-4

「子育てにやさしいまち」 をつくるひと

p5_【サポセンの事業報告】

- 「持続可能な市民社会を実現する実践研究会」
2020年度オープン講演会
- みらいカイギ 2020

p6_2020年度 ITチャレンジ紹介／サポセン新規届出団体

p7_【スタッフコラム】

多文化共生へ～円滑なコミュニケーションに使える日本語～

p8_【ある日のサポセン】 サポセンの本を活用しよう！



サポセン
メルマガ登録はこちら！
[https://forms.gle/
4TyL29qUiidWqZcu6](https://forms.gle/4TyL29qUiidWqZcu6)



**2020年
12月オープン!**

ほっとるーむ八柱

047-392-7081

利用できる人
3歳までの乳幼児と家族、
出産予定の方

コワーキングスペース、
カフェスペースも完備!
『ひとりじゃない』と思える
居場所になれるよう
笑顔でお待ちしています。

運営は「ほっとるーむ東松戸」と同じ「NPO法人子育てひろばほわほわ」。活動初期・法人立ち上げ期のメンバーから、広場を利用していた母親で「ここで働きたい」と最近入ったスタッフまで、広い年代が担っています。

今回お話を伺ったのは恩田さんと駒口さん。「今はコロナで入院出産した瞬間から立会・面会もできず、お母さんの孤独を感じたと話される方が多い。退院後、やっと来てくれたお母さんを温かく迎え入れ、そばで話しかけるところから、「悩みを言つてもいい」「相談してもいいんだ」と実感してもらえるよう心がけています」と話します。

ここ数年で低年齢化、平日は保育園に行く子が増えたと感じるベテランのお二人。育休中の利用者も多く、一歳未満で一時預かりを利用し仕事探しを行ったお母さんのエピソードも伺いました。

八柱の特徴は駅ビル直結なことに加え、Wi-Fi・電源付コワーキングスペースが子どもの中線から見えないよう設置されている点。広場のお父さん率が高い土日は、子どもを預けてお父さんの仕事利用も。おうちだとどうしても家事が気になるお母さんが、離乳食のメニューを決める・写真を選ぶなど集中タイムに一時預かりの時間枠ぎりぎりまで使えて利用が増えています。

木のおもちゃの温もりも感じつつ、地域で想いを持つて活動しているNPO「ほわほわ」の皆さんだからこそ、安心して預けられる、また週末の我が家と一緒に遊べない親でも一緒に関わってもらえる「ひと」の温かみある「ほっとるーむ八柱」。近辺の親御さんはまずはふらっと行つませんか?

楽しいぬりえや工作も豊富

この日はじめてきたという近所の親子づれ

桶野口こども館

047-393-8415

利用できる人
0歳から18歳未満の児童
※小学校入学前のお子さんは保護者同伴

きれいな水色の、のぼりが目印

安心して子どもを送り出せる場所

館内に入ると、様々なチラシ類が整然と掲示された入口。正面のドアの奥、少し天井の高い「プレイルーム」がこども館です。ここに来た子どもたちは、部屋に入ると受付と手指消毒を済ませて、何をしようかとさっそく品定め。折り紙や工作をする子、おもちゃで遊ぶ子。複数人でくる子も、一人でくる子もいます。なかには「パパは帰つて!」と親御さんを帰すお子さんも。

運営するのは、こども食堂・こどもの居場所の運営や、「まつどでつながるプロジェクト」を主催するNPO法人さんま。代表の石川さんは、最近子どもたちが遊ぶ場所が本当に少なくなっているので、安心して行ける場所を増やしたいという想いで運営しています。自団体運営の居場所と異なる点は、公共施設の中にあるため、保護者の方がより安心してお子さんを送りだせる場所としてご利用いただいていることだそうです。「青少年会館は元々、小学生以上を対象とした場所ですが、こども館が入ることで乳幼児親子さんも利用できるようになりました。気軽に立ち寄って相談したり、おしゃべりなどもしてもらえたら」と話します。

スタッフは来館した子どもたちと一緒にはず、会話をするようにしているそうです。スタッフのひとりは、「スタッフでも先生でもない存在」として接することや、なるべく余計な口出しをせず、「何かをやってほしい気持ち」が伝わってきて、自分から言つてくれるのを待つようにしているのだと話してくれました。

「子育てにやさしいまち」 をつくるひと

**まつど DE 子育て
-施設情報-**

松戸市内子育て支援施設
「おやこDE広場・ほっとるーむ」…19か所
「子育て支援センター」…8か所
「児童館」…1か所 「こども館」…4か所
「青少年プラザ(中高生の居場所)」…4か所

特集

「共働き子育てしやすい街 ランキング
2020総合編1位を受賞」と、広報まつど1月1日号の第一面で大きく取り上げられていたのを記憶されている方は多いのではないでしょうか。保育所(園)や放課後児童クラブの充実、待機児童ゼロ、コロナ下での妊産婦支援、ひとり親支援などの様々な施策が評価された、とのことです。

一方、「子育てしやすいなー」という実感が生まれるのは、子どもや子育てる人たちを、やさしく見守る人が多いからではないでしょうか。施策は大事ですが、それは骨格であり、そこに魂を吹き込むのは「ひと」であるということ。

市内には子育て・子どもにまつわる公的施設が多々あるなかで、NPO法人が運営をしているのは、放課後児童クラブで半数以上、おやこDE広場・ほっとるーむでは約3/4あります。なかでもこども館と青少年プラザは全館NPO法人が運営を担っている状況です。

今回の特集では、比較的近年オープンしたNPO法人が運営している施設に訪問し、運営するうえで大事にしていることなどのお話を伺ってきました。

今回お話を伺った施設

ほっとるーむ八柱 青少年プラザ八柱

松戸市日暮1-1-1 八柱駅第2ビル
★ほっとるーむ八柱…4階A号室
★青少年プラザ八柱…3階

新京成電鉄「八柱」駅直結

六実こども館

松戸市六高台3-71 六実市民センター別館1階
集団指導室(水曜日は本館2階ホール)

東武野田線(東武アーバンパークライン)
「六実」駅徒歩約16分

新京成線「五香」駅東口より、
ちばレインボーバス六実駅行
「六実支所」下車徒歩約3分

**青空いろの「のぼり」が
目印です!**

※ご利用の際にはそれぞれの施設の電話かQRコードで詳細をご確認ください。



六実こども館

 080-3507-3538

 利用できる

④ 0歳から18歳未満の児童
※小学校入学前のお子さんは
保護者同伴

取材した日は集団指導室で活動されていましたが、とても清潔感があり、明るいお部屋です。運営をしているNPO法人近助（きんじょ）は、六実を中心に「困っている人」と「助けたい人」をつなげる、地域での助け合いや介護予防活動を行なう団体です。子ども食堂「ワイガヤ食堂」の運営もしています。こども館のご利用は、乳幼児（とママさん）、小学校の中学生までが多いものの、高学年や、中高生も来るそうです。

館長の澤谷さんは、「何をするでもないけど、なんとなく来ちゃった」と言つてももらえるような場所づくりを目指しているとのこと。スタッフとお子さんたちの関係はとても柔軟です。対等になるときもあれば、大人のほうがこどもに「教えて」という場面もあります。だから、ゲームをしていても、「負けたあげよう」という気持ちを持つことはなく、お互いに一緒に楽しむ姿勢です。「気持ちを摘まないよう」という表現がとても印象的でした。

少し大きな子には、スタッフと一緒に、子どもの相手やお手伝いをしてもらうこともあります。役割を持つことで、少しずつ場所になじんできて、スタッフにも親しげな憎まれ口をきいてくれるようになるのだと。その様子を聞いて、お母さんがほっとした様子だった。といったエピソードも聞かせてくれました。色々な選択肢の一つとして、大人に愚痴を聞いてほしいとき、学校に居づらいお子さんや、中高生などにも使ってほしいと話していました。



中島くんの感想

青少年プラザは安心していられるスペース。ワイワイ、というよりリラックスできる感じ。Wi-Fiやタブレットもあるので、調べものをしたり、勉強の息抜きでちょっと動画を見たり…と、自分のペースで過ごせる空間なのが良いです。今後はイベントも利用者のニーズを見ながら考えたい、とのことで楽しみです。僕もアイデアとか出しますよ!(笑)

運営をしているNPO法人キヤリアデザイン、研究所は、市内の「青少年プラザ五香六実」の運営も行っています。法人の会員にカウンセラーや多いことから、「傾聴」「寄り添う気持ち」を中心としています。理事長の村松さんは「ここが分らしく居られる場であつたらしい。否定せずすべて肯定される、『お互いOK』の関係性づくり」が大事」と話します。

室内は木目調の家具などで統一された温かみのある空間ですが、実はスタッフのみんなで「居心地よく、使い勝手の良いものを」と選定しました。村松さんは祝日の開館直後でしたが既に将棋をしたり漫画を読む高校生の姿も。ちなみに普段は勉強のために利用しにくる中高生が多いとのこと。

センター長の大友さんは「以前、利用者の高生が『韓国語が使える』と話してくれたことがあって、利用者が得意なことを活かしたり、企できる面白いのでは、と考えています」と話す。村松さんとともに「コロナだからダメ、じゃなくてどうやつたらできるか、を考えていきたい」と、今後の展望を語ってくれました。



まつど DE 子育て
青少年プラザ八木

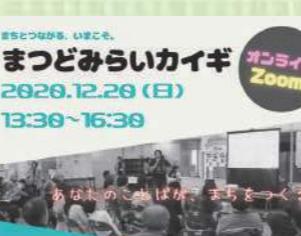
二口ナ禍における市民活動の 継続・進化とは?

持続可能な市民社会を実現する実践研究会
2020年度オープン講演会



With ニコナの新しい
スタイルで開催しました！

12/20
みらいカイギ2020開催レポート



やはしら
青少年プラザ八柱

080-4614-1192

自分をしく辱められる
市内4か所目の「中高生の居場所」

「サポセンの本を活用しよう！」

～本の感想レビューを書いて、団体やイベントのPRをしてみませんか？～

「サポセンライブラリー」というまちづくりに関する図書コーナーが
サポセンにあるのをご存じですか？この度、サポセンの本を読んで、
感想レビューの投稿とセットで団体活動のPRができるキャンペーンが
スタートします！本の貸出も届出団体限定で行っていますので
「あの本読んでみたい！」「この本をきっかけに、自団体の活動も
知つもらいたい！」という方はぜひ活用してみてくださいね！

後日、
サポセンの
SNS等で
紹介されます！

専用フォームに本の
感想と、団体の活動や
イベントのPR文を
投稿しよう！



本を借りたい団体さんは

2

サポセンの窓口へ来館し、
希望した本を取りに行く

貸出期間は2週間です

受付簿の記入をお願いするので、
本棚から直接本を取らずに
窓口でお声がけください



1

Webからサポセンの
蔵書一覧をチェックして、
レビューする本を決め、
サポセンにメールまたは
電話で本の予約をしよう！

希望の本が貸出済みでないか
の確認のためにも、事前に
連絡をお願いします！



サポセンライブラリーと
キャンペーンについて
詳しくはこちら！



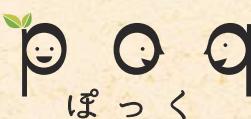
ライブラリーページ

サポセンの蔵書は
ここでチェック！



ブログ

サポセンニュースレター



「ぱっく」の
主な設置場所

松戸市内の図書館、市民センター、公民館など各種
公共施設の他、松戸駅などに設置しています。

「ぱっく」設置協力店

Sampo Café(八ヶ崎7丁目)
松戸探検ひみつ堂(松戸1874)
子育てつながるセンター co-no-mi
(本町13-27)
松戸観光案内所(本町7-3)
やしま商店(本町6-3)
隠居屋 IN kyo-Ya(南花島中町196)

第23号(2021年萌芽号)

発行日：2021年3月25日

(※年4回発行)

発行元：まつど市民活動サポートセンター
(指定管理者 NPO法人まつどNPO協議会)

まつど市民活動 サポートセンター

〒271-0094 松戸市上矢切299-1(総合福祉会館内)

TEL: 047-365-5522 FAX: 047-365-5636

E-mail: hai_saposen@matsudo-sc.com

URL: http://www.matsudo-sc.com/

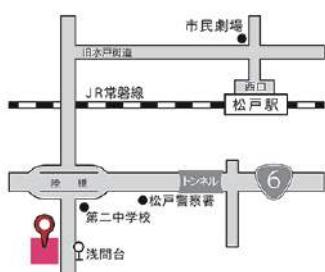
facebook: https://www.facebook.com/matsudo.sc

開館時間

月～土：9時～21時
日：9時～17時

休館日

第1・第3水曜、
年末年始
(12/29～1/3)



※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、施設利用に制限がある場合があります。詳細はサポセンホームページをご覧ください。

「ぱっく」の配架にご協力いただけるお店・施設を募集します！

ニュースレター「ぱっく」を、お店や施設に配架していただけませんか？
ご協力いただいたお店・施設は、この欄で名称・所在地等をご紹介いたします。
もちろん、無料でお届けし、部数もご要望に応じます。広告掲載も募集中です。詳しくは
まつど市民活動サポートセンターまで、お電話・メール等でお気軽にお問合せください。



つくしがよきよき、桜ははらはらと、例年より早い
春の訪れを自転車から静かに楽しんでいます。(ひ)